



看護管理室  
地域医療サービスセンター副センター長兼  
看護師長兼急性期ケア推進室

高橋 敏枝

謹んで新年のお慶び申し上げます。  
昨年は診療報酬の改定に伴い、退院支援システムの改定や新たに退院支援部門と病棟が協働して退院支援カンファレンスを開始しました。今年さらには病棟と連携を図りながら入院した患者様が退院後も安心して地域で生活が行えるように退院支援での関わりを深めていきたいと思っています。また、地域に戻られた患者様のご自宅や施設などに訪問することで入院から継続した支援が提供できるように退院後訪問が実践できるように活動を行っていききたいと思っています。本年もどうぞよろしくお願いたします。



中央手術室看護師長兼  
中央滅菌室長

藤原 妙子

謹んで年頭のご挨拶を申し上げます。  
中央手術室は今年度4月に29名体制となったことにより、時間内手術に対応できる看護師数の増員によりスムーズな手術の受入れが可能となりました。しかし、予定手術及び手術室利用率の低下によりこの体制が十分生かされていない事もあります。外科系の先生方には手術室の適正利用にご協力のほどよろしくお願致します。

また、手術を受ける患者様が最良の状態です。手術にのぞんでいただけるよう、周術期管理を医師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士や地域歯科医院の先生

方と連携し、実践できるような準備を進めております。導入時は限られた診療科の患者様を対象とし、徐々に拡張していくよう計画しています。周術期管理センター開設の際には、私達の活用とご支援をよろしくお願いたします。



放射線科看護師長

則村 正文

新年明けましておめでとうございます。  
中央放射線部では、CT、MRI、アンギオ、テレビ、内視鏡、RI検査や、放射線治療など様々な検査や治療を行っています。予定の検査、治療が滞りなく、また、緊急の検査や治療が迅速に受け入れることができる、そして患者様の安心納得が得られるよう、多職種と共同して頑張っています。

患者様の医療過程により良い医療を提供すべく、スタッフ一同努めていきます。本年もよろしくお願いたします。



外来(入退院サポートセンター)看護師長

渡邊 久代

新年あけましておめでとうございます。  
入退院サポートセンター、及び病床管理師長を担いはや2年目が過ぎようとしています。

昨年の一文字は「金」でしたが入退院サポートセンターでは「つなぐ」の3文字でした。入院決定時から退院後の生活を見据えた支援活動、病棟カンファレンス参加などを通して患者様の視点で考えることに重点を置き看護の質の向上につとめています。

病床運営では医師、看護師の皆様のご理解とご協力を頂き感謝いたします。非常に困難な状況もありましたが皆様の御協力と団結力で高い稼働率にもどすことが出来ました。当院のチーム力の高さを痛感した良い年でした。今年も当院で治療の必要がある患者様をお断りせず快く入院していただけるように誠意ある調整を心がけたいと思っております。  
今年もよろしくお願致します。



外来(救急外来)看護師長

濱 裕代

明けましておめでとうございます。  
りんくう医療センター救急外来は、平成28年10月から救急体制を変更したことにより、休日・夜間の受け入れが70%台より90%台となり、救急診療が必要な方の診療がより多くできるようになりました。安心して医療を受けられる救急看護の実践・満足していただける救急外来を目指し、スタッフ一同努力します。



ICU/CCU看護師長兼  
急性期ケア推進室長

川島 孝太

昨年はパートナーシップナーシング(PNS)の定着に力を入れた1年となりました。PNSの強みの一つに教育効果が挙げられます。若手看護師を中堅へ、中堅看護師をベテランへといった階段式の教育計画を基盤にPNSを実施したことによ

り、一人ひとりが看護師としての自覚や自信・責任感が生まれ、リーダーシップにつながる行動変容も見られるようになりました。集中治療室での看護には、看護師の迅速な判断や予測などが求められ、スタッフの育成は非常に重要となります。言葉にしにくいものは背中をみせつつ、そして知識・理論もしっかり言葉で伝え、「よりよいクリティカルケア看護」を行う部署になるよう奮闘していきたくと思います。



5階海側病棟看護師長

上野 智美

新年あけましておめでとうございます。5階海側病棟は、緊急入院・退院とまぐるしく患者様が入れ替わっていく中、スタッフ、一人一人は役割意識を持ち、自己研鑽に努めています。また、昨年当病棟では、チームリーダーが中心となり様々な改革を行い、業務改善や看護の質の向上に取り組み、現在も変化し続けている病棟です。看護の質の向上を目指すスタッフ皆の前向きで直向きな努力には頭が下がります。「前向きなチームはより成果をだす」と言われています。本年も病棟一丸となって何事にも全力で取り組み、看護の提供ができる病棟を目指します。





6階海側病棟看護師長  
高島 麻由美

新年あけましておめでとうございます。昨年の3月、6階海側病棟に異動になりやっとスタッフの顔、特徴、性格など把握出来るようになりました。

超高齢化社会となり、6海に入院される方の中には認知症の患者さま、あるいはせん妄を発症する方も多くおられ、看護師の知識、技術の習得も余儀なくされています。私も、認知症高齢者の勉強会に参加したり、地域の「認知症サポートー養成講座」を受講し、少しでも認知症の方を理解しその人らしく過ごせるように、また、スタッフにも習得した知識を勉強会などで伝え、病棟全体で高齢者にも優しい看護を目指しています。



NICU/GCU看護師長  
松本 由美

昨年の3月からNICU/GCUの看護師長に任され、早くも新しい年を迎えることとなりました。成人と異なり、自ら言葉で訴えることができず少しの外的要因で変化を受けやすい新生児が対象であるため、非常に細かいケアや些細な変化も見逃さない観察力が要求されます。当初は1000g台の新生児を見ると「なんて小さいのだろう」と思っていました。今では新生児を見ると「すくすく育ったね」と感じます。近年、医療の進歩によって命を助けることができる新生児が増えているため、新生児の病状が回復しすくすくと育っていく状況に立

ち会えることがNICUで働く私たちのやりがいにつながっていると実感しております。赤ちゃんを取り巻く家族の気持ちを理解し、親身になってサポートしていきたいと思えます。



6階山側病棟看護師長  
福島 ひとみ

新たな年を迎えご挨拶申し上げます。泉州広域母子医療センター発足8年前も定着し、ハイリスクからローリスクの方々の出産施設として、24時間安心・安全な周産期医療を医師とともに提供できるようスタッフ一同一丸となって日々研鑽しております。

昨年より当院で出産していただいた方々に泉州こだわりタオル「おくるみ」のプレゼントや妊産褥婦の方々の食事内容を見直しおいしい食事になりました。また今年度は、面会制限の緩和に努め、地域の方々のニーズに少しでも対応できるように努力していきます。

もちろん、周産期施設の最後の砦と自負し頑張つていきますので、本年も何卒よろしくお願いいたします。



7階海側病棟看護師長  
南 昌子

あけましておめでとうございます。7海が耳鼻科と整形外科の病棟になって4年近くになります。整形外科は手術の延長に伴い、手術件数も増加しています。耳鼻科も悪性腫瘍に対する治療などさらに最先端の治療を取り入れておられ

ます。看護も様々な状況に対応しながら忙しい毎日ですが、患者様中心のより安全な看護の提供を目指し学びを深めています。また昨年からは退院支援にも力を入れ、より充実した退院指導とクリニカルパスを充実させ早期退院し、在院日数の短縮ができるように様々なコメディカルの方々との連携、カンファレンスの開催にも取り組んでいます。今年もチーム一丸となつて、さらによい医療、看護が提供できるような力を合わせ頑張つてまいりたいと思えます。



7階山側病棟看護師長  
奥出 恵子

新年あけましておめでとうございます。2016年の診療報酬改定により、ますます看護が評価される時代となりました。責任は大きくなりますが、やりがいもつと大きくなります。

当循環器病棟には、2名の認定看護師が在籍、活躍し、また研修で不在であった私の代理として、さらに成長した副師長と31名のスタッフがいます。成長した「小トリ達」と、患者家族様が不安なく早期に退院でき、安心して自宅で生活できるように、質の高い看護と指導を提供していきたいと思えます。

「酉年」は「取り込む」ということから、成果が得られる、区切りの年になるという意味もあります。

運氣や有効な情報を取り込み、患者家族様、そしてみんなが実りある1年になることを願ひ努力していきます。今年もよろしくお願ひ致します。



8階海側病棟看護師長  
射手矢 奈津子

新年明けましておめでとうございます。昨年同様、外科手術は600件を超え、クリニカルパス使用率は76%使用し、患者様への入院療養計画書も日々、患者様のご意見をいただき、適切でよりよい情報提供できるよう取り組んでいます。手術以外での緩和ケアにも対応できるようスタッフもスキルアップしています。患者様に安心して安全な看護が提供できるよう今年度も取り組んでいきたいと思えます。退院後も不安がなく生活できるよう、チームワークを発揮し多職種や地域とのコミュニケーションをはかり連携していきたいと思えます。本年度もよろしくお願ひ致します。



感染症センター看護師長  
深川 敬子

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。昨年は関西空港従業員の麻疹(はしか)に対応し感染力の怖さを実感しました。すれ違っただけで感染するため職員が玄関で有症状者へ呼びかけ、早期発見を行いました。医療従事者は感染情報を常に敏感に捉え対応しないといけません。また、医療従事者の手により他の患者さんへ感染しないよう標準予防策、特に手を洗うことがとても重要です。本年も感染予防対策にご協力くださいますようお願い申し上げます。